

市民タイムス

(1) 日刊第11925号 平成20年(2008年) 8月5日 (火)



胡桃沢宏行氏

松本商議所

専務理事に胡桃沢氏

県テクノ財団
事務局長

民間出身者起用へ

松本商工会議所の井上会頭は四日までに、空席となっていた専務理事に、県テクノ財団事務局長の胡桃沢宏行氏(六三)を起用する

意向を固めた。二十七日
に開かれる常議員会と臨時議員総会で承認されば、九月に着任する。

胡桃沢氏は松本深志高校から信州大学工学部精密工学科に進み、卒業後は大日本印刷を経て昭和四十五年に信州精機(現セイコーエプソン)に入社した。六十二年から八年間はエプソンの米国子

会社に、平成九年から四年間は英國の子会社にそれぞれ出向し、豊富な海外経験を持つ。

セイコーエプソンを定年退職した十七年から、

松本商工会議所は今年四月、役職の定年制(理

事は六十六歳、専務理事

は六十九歳)を導入し

た。これに伴い、平成十

年から九年間、専務理

事を務めた松下倫省氏が

一バレルな考え方を持つている。松本市工業ビジョンの作成にかかわり、仕事ぶりを見て評価した」と起用の理由を述べた。

松本商工会議所は今年四月、役職の定年制(理

事は六十六歳、専務理事

は六十九歳)を導入し

た。これに伴い、平成十

年から九年間、専務理

事を務めた松下倫省氏が

声も寄せられていたが、「いろいろな人の推薦を受けた。一人ひとり面会して調整に時間が掛かった」と空席が長引いた理由を話している。

(柳 純一)

三月末で退職し、以降は空席となっていた。
井上会頭は当初から、民間企業経験者から専務理事を起用する意向を示していた。議員からは専務理事の不在を心配する声も寄せられていたが、

井上会頭は当初から、民間企業経験者から専務

理事を起用する意向を示していた。議員からは専務理事の不在を心配する

理事を起用する意向を示していた。議員からは専務

理事の不在を心配する

理事を起用する意向を示していた。議員からは専務

理事の不在を心配する